



## Osaka Gakuin University Repository

Title	雑誌掲載写真による女性ファッションの変化の分析－ ボトムスの長さ及びメインカラーの時系列変化と景気 動向との関係－ Analysis of Ladies Fashion Changes by Magazine Photographs – Length of Bottoms and Main Colors Variations over Time, and Relationships to Economic Conditions –
Author(s)	石倉 弘樹 (Hiroki Ishikura)
Citation	大阪学院大学 企業情報学研究 (OSAKA GAKUIN CORPORATE INTELLIGENCE REVIEW), 第 10 巻第 3 号 : 1-13
Issue Date	2011.03.30
Resource Type	ARTICLE/ 論説
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

雑誌掲載写真による女性ファッションの変化の分析  
—ボトムスの長さ及びメインカラーの時系列変化と景気動向との関係—

石倉 弘樹

**Analysis of Ladies Fashion Changes by Magazine Photographs  
—Length of Bottoms and Main Colors Variations over Time, and  
Relationships to Economic Conditions—**

Hiroki Ishikura

ABSTRACT

3346 photographs from the last 30 years of a ladies' magazine were analysed. From the results, the following conclusions are obtained.

1. In the case of observing over the long term, skirt lengths tend to shorten little by little.
2. When the economic situation becomes better, pants fashion and cold colours become popular.

## I はじめに

アパレル製品のファッション分析を行った研究の多くでは、その時代、その時代のファッションを分類、整理して調べていることが多い。ファッションの流れを数値化し、データ分析した研究はほとんどないと思われる。少なくとも最近20年間はファッションの時系列的変化を扱った研究を筆者は知らない。またファッションと景気の関係については「不況になれば黒色が流行る。」というような根拠のはっきりしない話を聞くことはあるが、データからその根拠を示した一般性のある結果はないと思われる。ここ数十年のファッションの変化を知り、またこの変化と景気との比較を行うのは興味深いだが、そのような研究は行われていない。そこで本研究では、女性雑誌「an・an」を1982年1月から2010年6月まで調査し、3346点の写真からファッションの変化を調べた。またこれらの結果とGDPの伸び率との関係をグラフにより比較したので、これらを報告する。

## II 研究方法

### 2.1 資料

#### (1) 資料収集雑誌

雑誌「an・an」に掲載されている写真を用いた。「an・an」は、1970年3月にフランスの女性向けファッション誌「ELLE」の日本語版「an・an ELLE JAPON (アンアンエルジャポン)」として創刊された。最盛期には約60万部を売り上げたといわれ、1970年代には、この雑誌や集英社の「non-no」を片手に各地に押し寄せる読者たちは「アンノン族」と呼ばれ、多くのファッションを生んだ。1982年に平凡出版は新たに「ELLE」日本語版として「ELLE JAPON (エルジャポン)」を創刊し、「an・an」は独立したファッション雑誌となった[1]。調査を行った1982年1月から2010年6月の間は水曜日発売の週刊誌であった。



図1 an・anの表紙の一例

#### (2) 対象ページ

各雑誌前半部分にあるカラーページから全身が写っている写真を順番に3点選んだ。ただし広告に使われる特殊な服装の写真は除き、日常着用されることがあると想定される服装に限定した。

## 2.2 ファッションデータ収集方法

データ収集は20歳か21歳の大学3年生の女子4人が行った。全身が写った一枚のカラー写真を元に、トップスの上着、中着（もし写真に写っていれば）の主要色と柄を表1から選んだ。ボトムスはスカートまたはパンツに分け、モデルを身長160cmと想定し、その長さを目分量で計った。スカートは膝からの長さ（上方向がプラス）、パンツは踵からの長さ（上方向がプラス）で表した。またトップスと同じく、それぞれのスカートかパンツについて主要色と柄を表1から一つずつ選んだ。

表1 主要色と柄

主要色	柄
赤, ピンク, 茶, オレンジ, 黄, ベージュ, クリーム。(暖色) 白, 黒, 灰。(モノトーンカラー) 緑, 水色, 青, 紺, 紫。(寒色)	横縞, 縦縞, ドット, チェック, 花, アニマル, 迷彩, 他のプリント, 単一色。

## 2.3 実質 GDP の変化

内閣府の統計表一覧を用いた。

## III 結果と考察

### 3.1 ボトムスの長さの変化

図2 各年のスカートの平均長さの変化

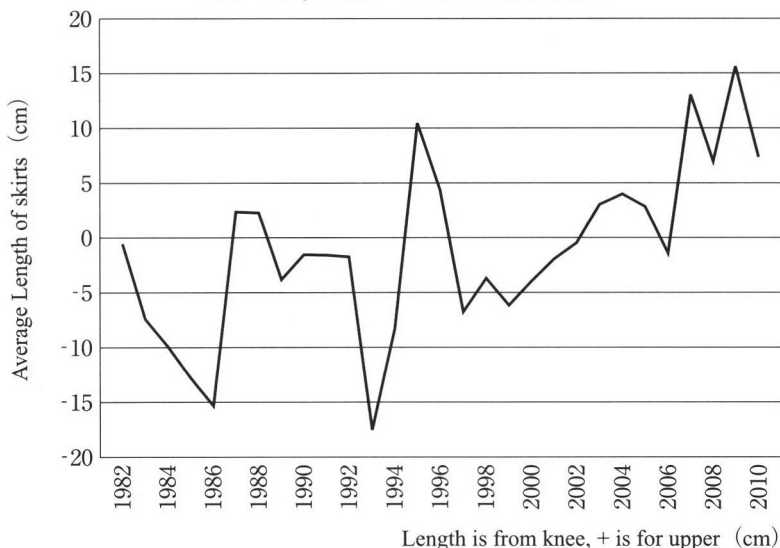


図2にスカートの長さの経年変化を示す。各年のバラツキが大きく、このグラフからははっきりとした傾向は読み取れない。図3と図4にそれぞれ3年と7年の移動平均の変化を示す。

図3 スカートの平均長さの3年間の移動平均

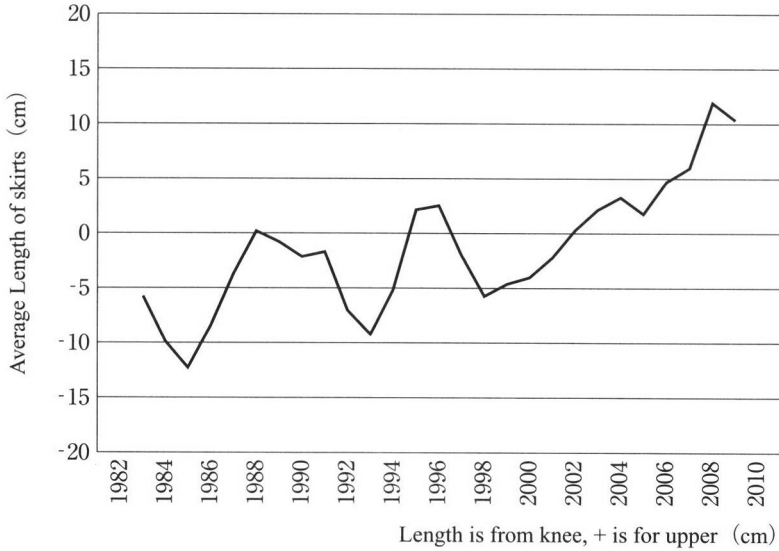
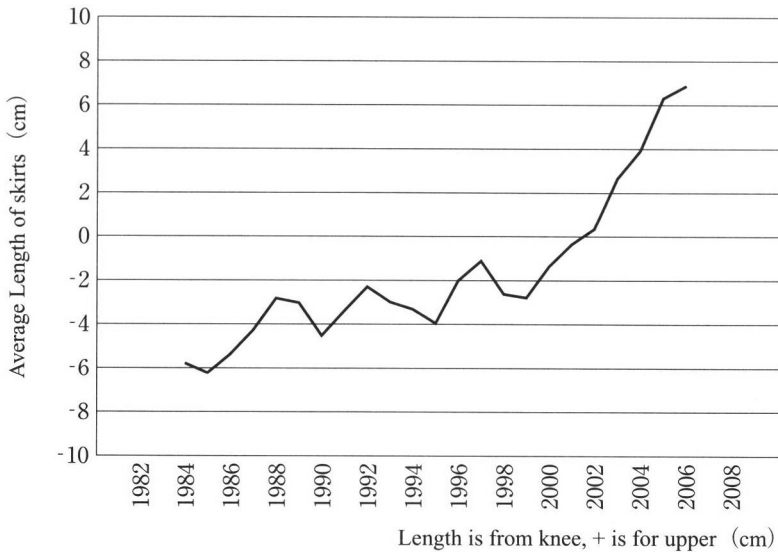


図4 スカートの平均長さの7年間の移動平均



これら二つの図からスカートの平均長さが短くなる傾向にあることがわかる。特に2000年頃からこの傾向が顕著になっている。

図5 各年のパンツの平均長さの変化

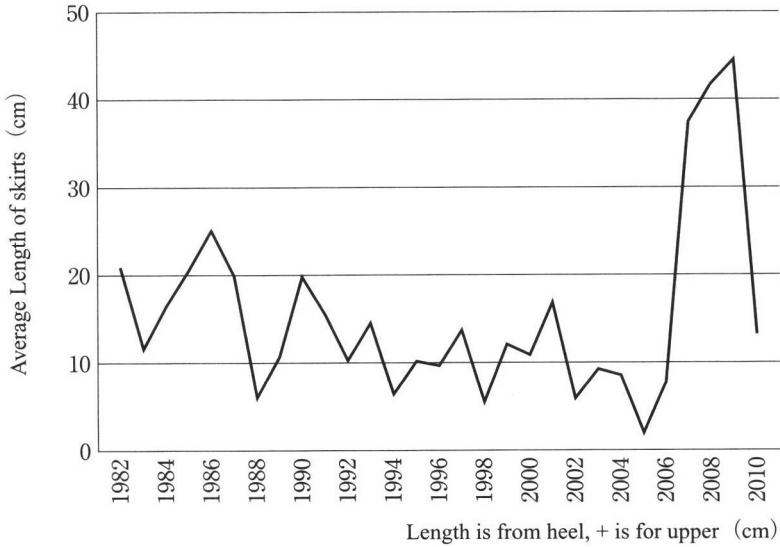


図5にパンツの長さの変化を示す。1982年から2006年は多少の上下はあるものの長くなる傾向にある。1982年頃は踵から上20cmが平均であったが、2006年にはほぼ踵ぐらいの長さになっている。ところが2007年から2009年が急に短くなり2010年にまた長くなっていることがわかる。この理由を考えるために2004年から2010年間のパンツの長さの分布を示す図を作り、図6から12に示した。

図6 2004年のパンツの長さの分布

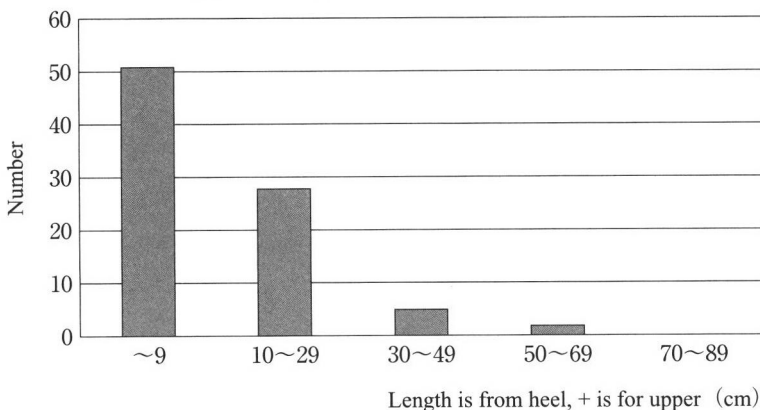


図7 2005年のパンツの長さの分布

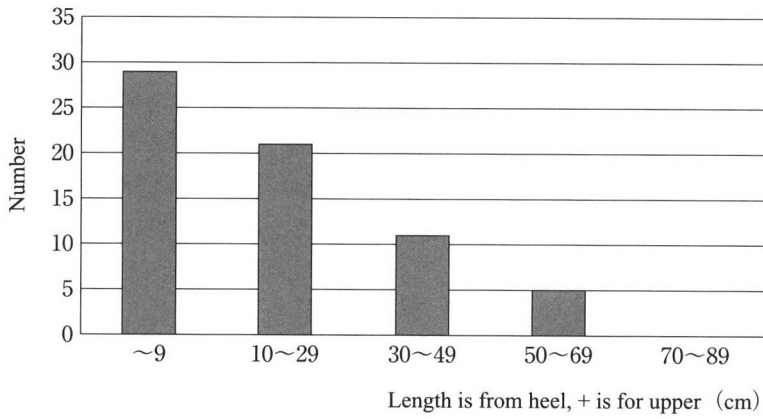


図8 2006年のパンツの長さの分布

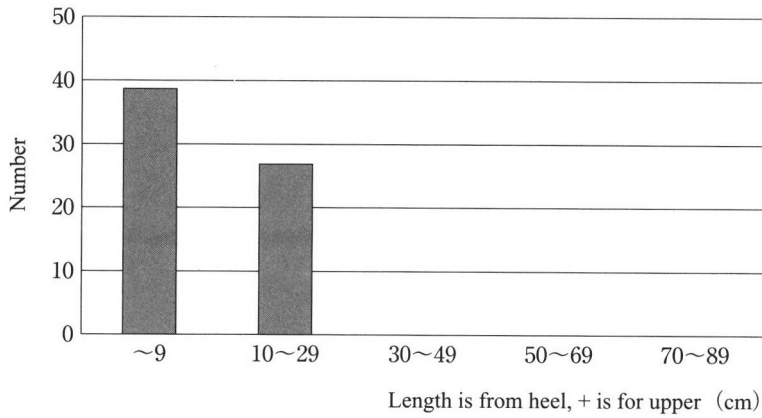


図9 2007年のパンツの長さの分布

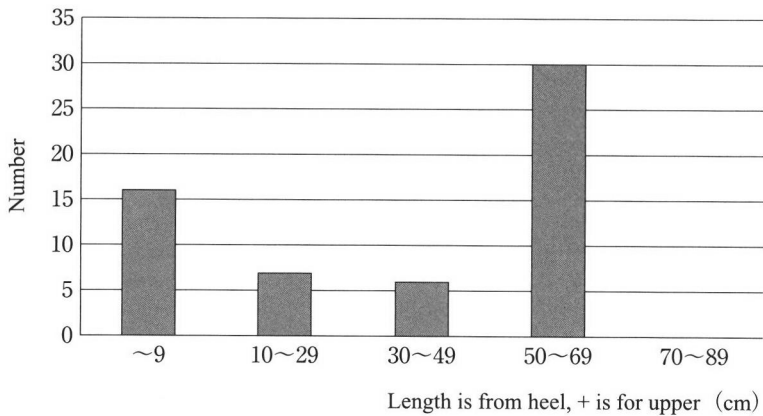


図10 2008年のパンツの長さの分布

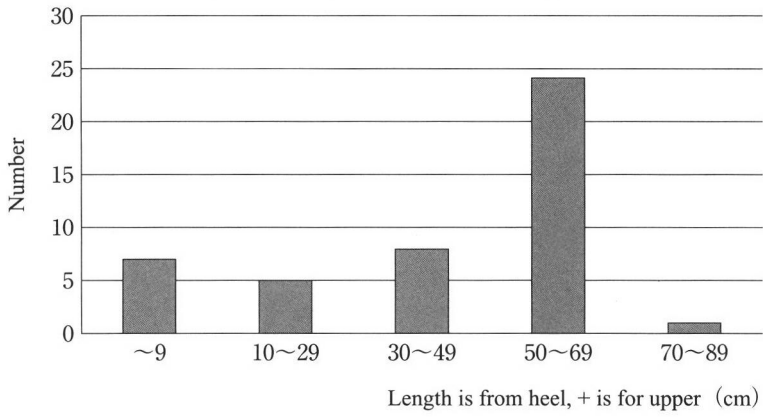


図11 2009年のパンツの長さの分布

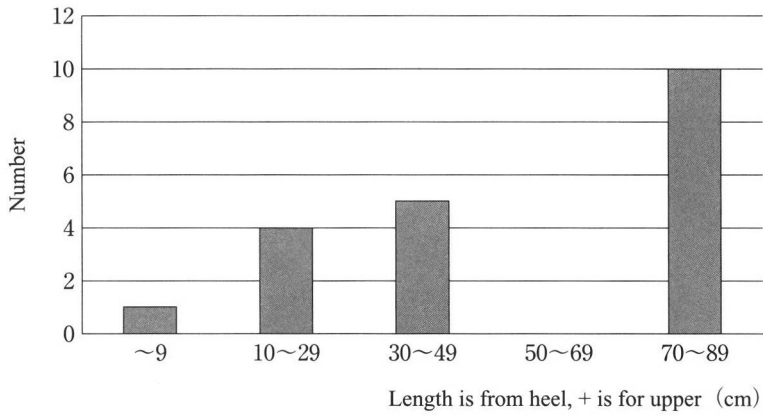
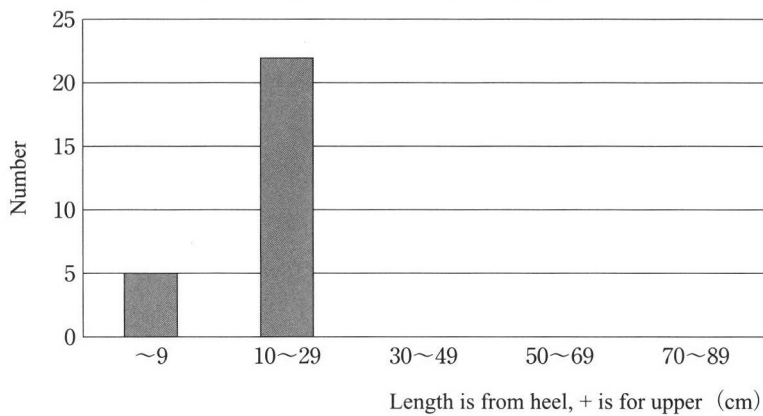


図12 2010年のパンツの長さの分布

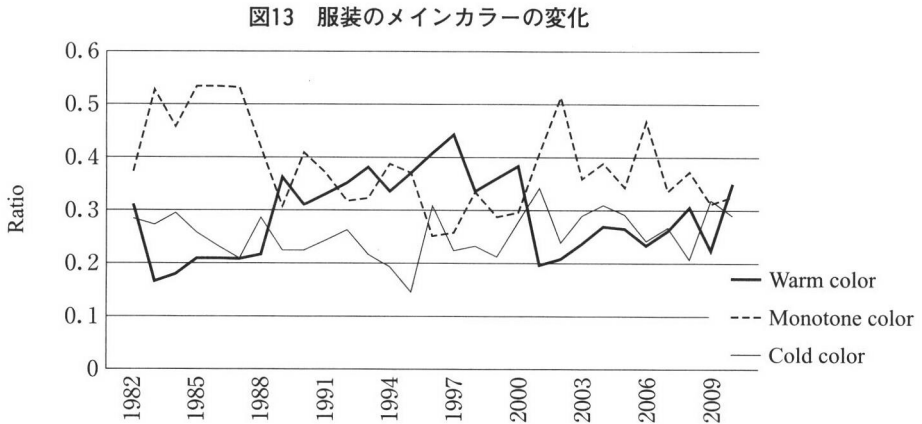




これらの図から、2007年から2009年の間はショートパンツが急に増加していることによりパンツの平均長さが短くなっていることがわかる。2010年は7月までのデータを用いているが、ショートパンツがこの年この雑誌からなくなっていることがわかる。街中では2010年もショートパンツを頻繁に見かけるので、雑誌と現実の着用には違いがあることがわかる。また an・an という雑誌の対象層の影響があるのかもしれない。

### 3.2 色の変化

図13に年による色の変化を示す。全体の傾向を見るために、暖色、モノトーンカラー、寒色にわけてグラフを作っている。各色がどこに属するかは、表1に示している。全体としてモノトーンカラーの割合が高く、少ない年で25%程度、多い年には50%を超えている。



## 3.3 柄の変化

表2 各年の柄の割合

年	横縞	縦縞	ドット	チェック	花柄	アニマル	迷彩	他の柄	柄なし
1982	0.079	0.029	0.021	0.071	0.057	0.000	0.000	0.086	0.664
1983	0.077	0.000	0.000	0.058	0.000	0.000	0.000	0.038	0.808
1984	0.080	0.037	0.006	0.080	0.024	0.000	0.000	0.064	0.709
1986	0.116	0.023	0.047	0.116	0.023	0.000	0.000	0.000	0.674
1987	0.058	0.005	0.003	0.108	0.026	0.000	0.000	0.055	0.750
1988	0.018	0.022	0.007	0.026	0.033	0.000	0.000	0.063	0.834
1989	0.017	0.033	0.017	0.041	0.061	0.000	0.000	0.025	0.810
1990	0.017	0.052	0.086	0.034	0.138	0.000	0.000	0.017	0.517
1992	0.021	0.025	0.018	0.075	0.050	0.002	0.000	0.046	0.692
1993	0.023	0.049	0.000	0.059	0.015	0.000	0.003	0.003	0.856
1994	0.035	0.038	0.000	0.038	0.041	0.003	0.000	0.054	0.798
1995	0.021	0.043	0.004	0.052	0.041	0.034	0.000	0.032	0.766
1996	0.017	0.052	0.017	0.048	0.096	0.009	0.000	0.122	0.639
1997	0.018	0.018	0.013	0.055	0.120	0.018	0.000	0.045	0.713
1998	0.002	0.013	0.017	0.038	0.074	0.015	0.002	0.021	0.820
1999	0.008	0.018	0.010	0.044	0.050	0.005	0.000	0.023	0.838
2000	0.011	0.016	0.016	0.029	0.127	0.008	0.000	0.143	0.650
2001	0.056	0.028	0.009	0.019	0.009	0.000	0.000	0.047	0.832
2002	0.036	0.047	0.007	0.011	0.044	0.004	0.000	0.084	0.766
2003	0.013	0.023	0.033	0.020	0.043	0.000	0.000	0.102	0.727
2004	0.015	0.023	0.023	0.020	0.047	0.006	0.003	0.140	0.729
2005	0.012	0.021	0.015	0.009	0.067	0.003	0.000	0.095	0.801
2006	0.010	0.010	0.020	0.017	0.074	0.003	0.003	0.017	0.845
2007	0.030	0.026	0.011	0.063	0.055	0.000	0.000	0.070	0.686
2008	0.028	0.016	0.012	0.028	0.024	0.000	0.000	0.092	0.772
2009	0.073	0.000	0.029	0.051	0.044	0.022	0.000	0.044	0.737
2010	0.097	0.015	0.037	0.037	0.142	0.015	0.007	0.067	0.590

表2より、プレーンな一色の服が毎年55-85%を占めており、その他の柄の占める割合は、数年の短い周期で変化しており、柄の流行があることがわかる。

3.4 ファッションの変化と景気の関係

図14 寒色の割合と実質 GDP の伸び率の関係

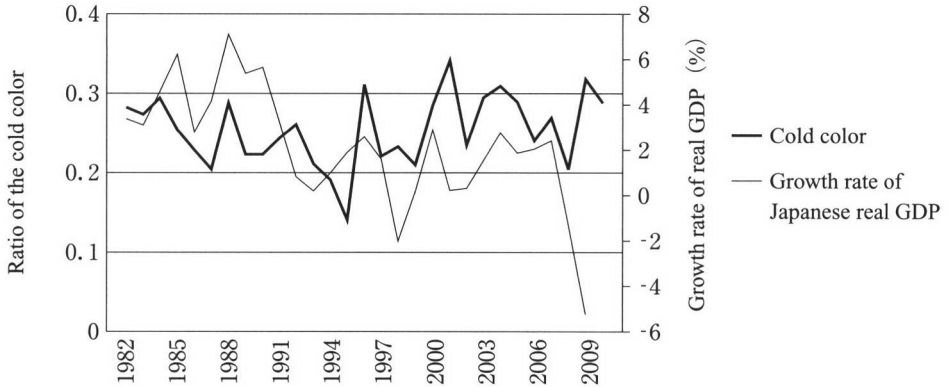


図14に寒色の割合と実質 GDP の伸び率の関係を示す。2009年は明確な違いが見られるが、その他の年は寒色の割合と実質 GDP の伸び率の上がり下がりほぼ同じ傾向を示していることがわかる。よくグラフを見ると実質 GDP の変化に1年遅れて寒色の割合が追従していることがわかる。実質 GDP の変化は景気の状態を見るための典型的な指標と考えられる。このことから2009年を除くと景気が上向くと寒色が流行しているといえよう。

図15 暖色の割合と実質 GDP の伸び率の関係

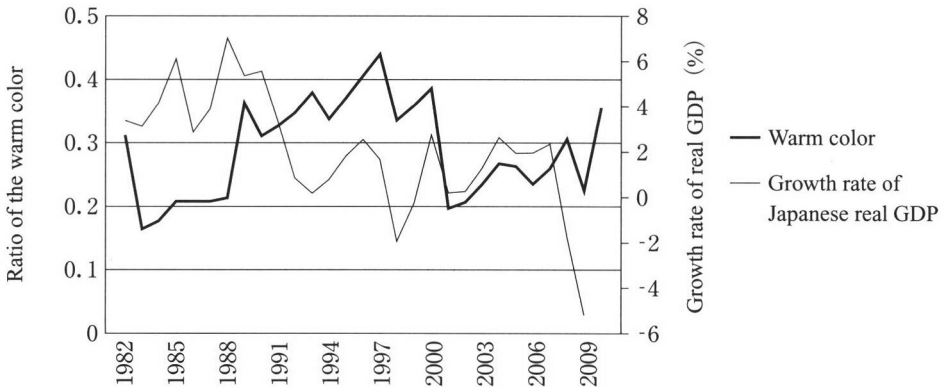


図15には暖色の割合と実質 GDP の伸び率を示すが、はっきりとした関係を見つけることはできない。また図16はモノトーンカラーと実質 GDP の関係を示している。量的にはモノトーンカラーが多いときには実質 GDP の伸び率が高い傾向があるが、2002年は全く異なる

し、2009年についても違いがある。

流行の色と景気に関係があるかどうかについては、今後他の雑誌を使うなどしてより多くのデータにより検証して行く必要があるが、いずれにしても2009年の不況と色の関連は見られないといえる。リーマンショックと呼ばれる2008年後半からの不況は、突然の変化であったということができよう。たとえ色の流行と景気に何らかの関係があったとしても、このことが影響して特別な傾向を示している可能性も否定できないであろう。

図16 モノトーン色の割合と実質 GDP の伸び率の関係

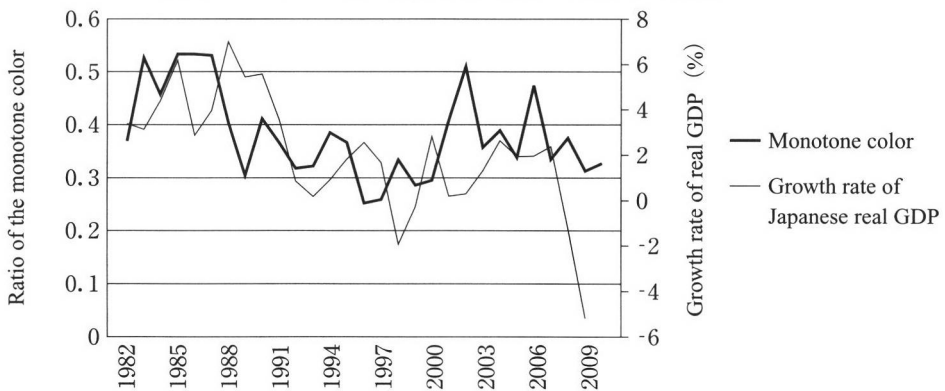


図17 パンツファッションの割合と実質 GDP の伸び率の関係

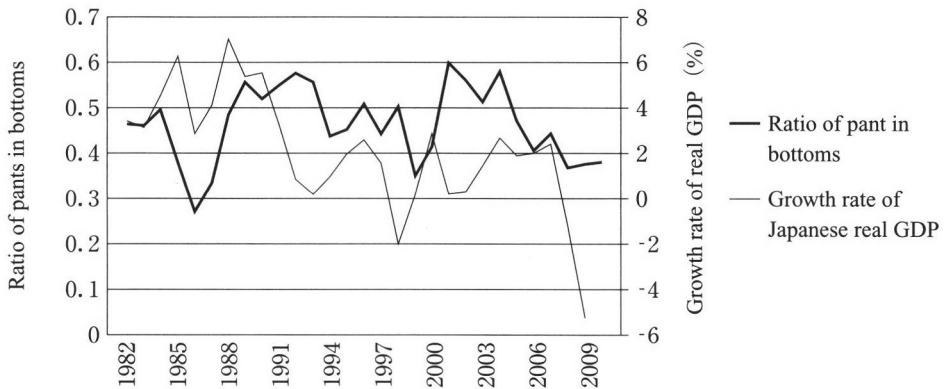


図17にボトムスとしてパンツを穿いている割合と実質 GDP の伸び率の関係を示す。パンツの割合が上がると実質 GDP が伸びる傾向があることがわかる。単純に考えると忙しくなると行動的なパンツファッションが便利であることが、その理由として考えられるが、ここでも2009年の実質 GDP の変化にファッションが対応しておらず、今後詳しい検証をする必要があると思われる。

図18 スカートの長さの平均と実質 GDP の伸び率の関係

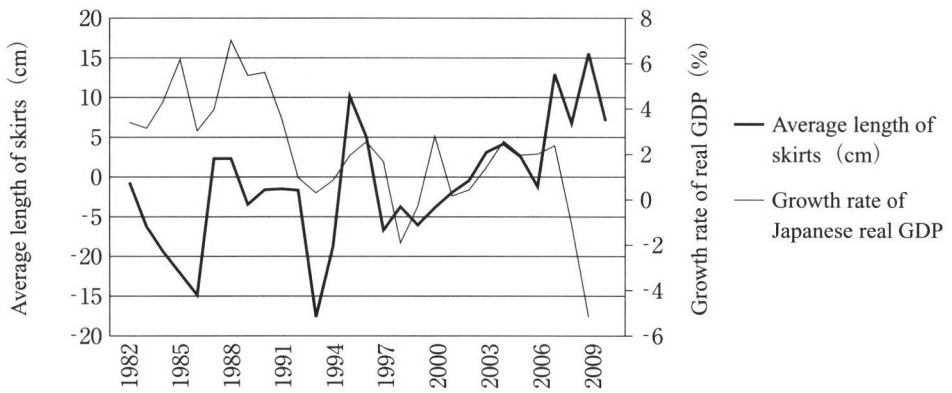


図18にスカートの長さを実質 GDP の伸び率の関係を示すが、明確な傾向を見つけることはできない。

#### IV 結 論

女性ファッション雑誌 an・an の過去30年間に掲載されている写真を分析した結果以下のことがわかった。

- (1) スカートの長さは年による変化は激しいが7年間の移動平均を見ると短くなる傾向がある。
- (2) パンツはショートパンツを別とすると、全体として長くなる傾向がある。
- (3) 色を暖色、寒色、モノトーンカラーに分けて見ると、モノトーンカラーの割合が大部分の年で最も大きい。
- (4) 柄には数年程度の流行があるが、無地が常に50%以上を占めている。
- (5) 景気が良いと寒色が流行する傾向がある。
- (6) 景気が良いとパンツファッションが増加する傾向がある。

<参考文献>

[1] URL: <http://ja.wikipedia.org/wiki/An%E3%83%BBan> 2011年1月16日

**謝 辞**

本研究のデータ収集は、大阪学院大学企業情報学部学生荒田直江さん、池田あゆみさん、平野絵梨香さん及び吉田留奈さんに行っていただきました。ここに記して感謝いたします。また研究を行う上で、大阪学院大学研究助成金の援助を受けたので、深くお礼申し上げます。